

豊かな流れ、
社会と生活を育む「水」の広がり。

(淀川流域のあらまし)

淀川水系は、近畿地方の中央部にあり、日本最大の湖である琵琶湖を源として瀬田川、宇治川となって流れ下り、京都府と大阪府の境界付近で、木津川と桂川を合流して大阪湾に注ぐ幹川流路延長75km、流域面積8,240km²の大水系です。

流域の年間平均降水量は1,600mmで、6・7月の梅雨期と、9・10月の台風期に降雨が多く、過去には大洪水を引き起こしてきました。しかし、貯水量275億m³の琵琶湖のおかげで流況が安定した河川だといえます。

地形的に見ると、桂川上流には丹波山地、木津川南部には高見山地、琵琶湖近辺には伊吹山地、鈴鹿山脈、比良山地、淀川本川南部には生駒山地があり、これらの山地に囲まれる形で大阪、京都、亀岡、大津などの都市が広がっており、淀川は近畿圏の発展の基礎をなす地域の中核ともいえる河川です。

水 系：河川を中心としてそれに付属する湖・沼なども含む流水の系統。
流 域：降った雨がその川に流れこむ地域。
幹 川：流量、長さ、流域の広さなどで中心になる河川。本川ともいう。
流 況：ある期間における流量の変化の状況。

①流域面積	8,240km ²	全国で第7位（1位は利根川の16,840km ² ） 琵琶湖流域：3,802km ² 宇治川流域：506km ² 木津川流域：1,647km ² 桂川流域：1,152km ² 淀川下流域：521km ² 神崎川流域：612km ² （その内、猪名川流域は383km ² ）
②流域内河川数	945河川	全国で第1位（2位は信濃川の867河川）
③年平均降水量	約1,600mm	日本の平均値1,790mm
④流域内人口	1,063万人	全国の総人口の約9%、近畿の総人口の約53%
⑤流域市町村数	123	42市、69町、12村

①「平成3年度河川現況調査」より ②⑤「1995河川ハンドブック」より
③「河川便覧1994」より ④「全国市町村要覧 平成6年度版」より推計



1969年事務所発足
国土交通省 近畿地方整備局
淀川ダム統合管理事務所
〒573-0166 大阪府枚方市山田池北町10番1号
TELEPHONE: 072-856-3131 (代)
企画／淀川ダム統合管理事務所
制作／COMMUNICA Corp.
納2004.3



近畿地方整備局淀川ダム統合管理事務所

大切なものを「水」から守る。

(淀川流域の治水)

淀川の治水の歴史は古く、仁徳天皇時代（320年頃）にまでさかのぼりますが、以来、豊臣秀吉による宇治川と巨椋池の分離、文禄堤の築造、18世紀初頭の大和川の付替工事など、幾多の治水工事が行われ、やがて明治時代には、オランダ人技師デレーケや沖野忠雄技師らによって西洋の土木技術が導入され、本格的な高水防御工事が開始され、近代河川としての淀川が形成されました。

そして1953年（昭和28年）、淀川水系に未曾有の大洪水をもたらした台風13号は、翌年のダム群による洪水調節を取り入れた淀川水系改修基本計画樹立の契機となり、瀬田川洗堰の改築（1961年3月竣工）、天ヶ瀬ダム（1964年11月竣工）、高山ダム（1969年8月竣工）の建設が行われ、さらに、1959年（昭和34年）の台風15号（伊勢湾台風）による出水を契機として青蓮寺（1969年12月竣工）、室生（1974年3月竣工）の両ダムが建設されました。

しかしその後も相ついで洪水に見舞われ各地で被害をこうむったこと、また淀川流域内における人口・資産の集中集積の著しいことから、治水安全度を大幅に向上させる必要が生じ、1971年3月に淀川水系工事実施基本計画の改定が行われました。

この計画においては新たに、洪水の発生する確率に基づき、地域ごとの重要度を考慮した複基準地点システムがとり入れられました。

淀川本川の基準点である枚方地点では200年に一度の確率の洪水を想定し、種々の洪水パターンを考慮して、基本高水流量を $17,000\text{m}^3/\text{s}$ 、計画高水流量を $12,000\text{m}^3/\text{s}$ としています。

工事実施基本計画：河川法により水系ごとに定める計画で、河川の保全、利用、工事の基本方針を定めたもの。

複基準点システム～：枚方だけでなく、加茂、羽束東などの上流地点も、重要度に応じた確率を用いて計画している。

200年に一度の確率の洪水：流域平均2日雨量を302mmとしている。

基本高水流量：ダムなどの治水施設がない場合の流量。

計画高水流量：ダムなどの治水施設が計画どおりある場合の流量。

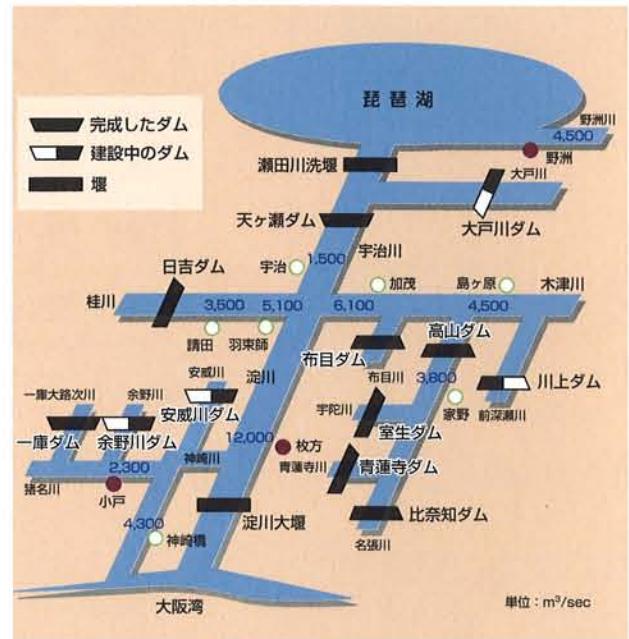
■淀川の大洪水（1950年～）

生起年月日	気象原因	流域平均雨量(mm)		最大流量(m³/s)			
		木津川	桂川	宇治川	木津川 (加茂)	桂川 (羽束東)	宇治川 (宇治)
1953. 9.25	台風13号	261	268	265	5,800	2,700	1,780
							* (8,650) 7,800
1956. 9.27	台風15号	204	137	166	3,850	815	670
1958. 8.27	台風17号	210	130	184	3,650	790	525
1959. 8.14	前線および台風7号	250	305	322	3,900	2,500	1,270
1959. 9.27	台風15号（伊勢湾台風）	296	177	282	6,200	1,700	885
1960. 8.30	台風16号	129	265	60	770	2,600	310
1961.10.28	低気圧前線および台風26号	289	245	209	5,220	2,100	1,000
							* 7,800
1965. 9.17	台風24号	205	216	206	5,170	2,500	900
1972. 9.17	台風20号	167	159	158	3,260	2,320	810
1982. 8. 2	台風10号	312	159	248	3,980	(納所) (向島)	6,260
1994. 9.30	台風26号	178	59	113	3,470	(納所) (向島)	2,750
1995. 5.12	低気圧前線	181	199	191	2,780	(納所) (向島)	4,760

※：破堤がなかったと仮定した場合の推定値。

※※：琵琶湖流域を除く。

■淀川の計画流量配分図



宇治川向島堤の破堤（京都市伏見区、1953年）



木津川支川服部川の氾濫により軒下まで浸水（上野市、1961年）

大切なものを「水」から守る。

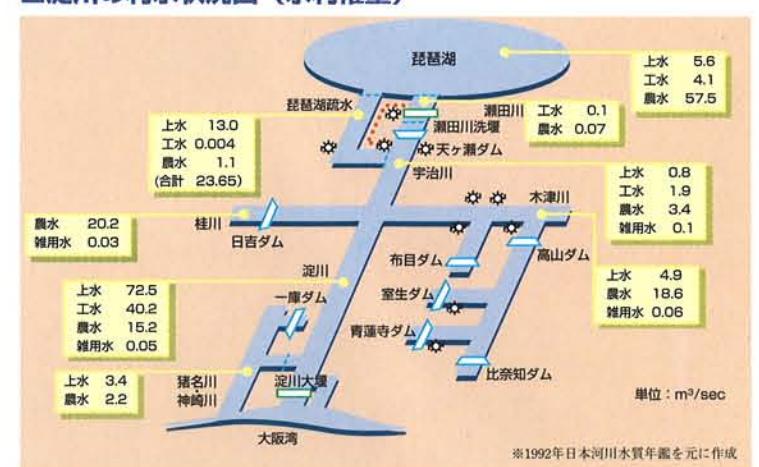
(淀川流域の治水)

淀川は、日本最大の湖・琵琶湖を有し、上流域を構成する琵琶湖流域が融雪期、桂川流域が梅雨期、木津川流域が台風期に流出量が多いというそれ程に異なる気象特性が、淀川本川の流況を安定させていたといえます。このため、昔から利水事業が盛んに行われており、琵琶湖疏水（1890年完成）を利用した蹴上発電所は、日本で最初の一般供給用水力発電所として有名です。

淀川の基準地点の年総流出量は約87億m³/年であり、流況（1985～1994年）は豊水流量が254.0m³/s、平均水流量が162.65m³/s、渇水流量が94.8m³/s、平均流量が約223m³/sです。また、淀川の三川合流地点の確保流量は186.51m³/s（かんがい期）となっており、淀川に依存するかんがい面積は約14万haであり、上水道用水は京阪神地区の約1,350万人（近畿圏の約60%）が利用しています。しかし、1984年と1994年は記録的な異常渇水となり、長期にわたって取水制限が行われており、今後、都市部の拡大、生活様式の変化などによる水需要の増加とともに安定的な水供給を目的とした適切な水管理が必要です。

水 利 用

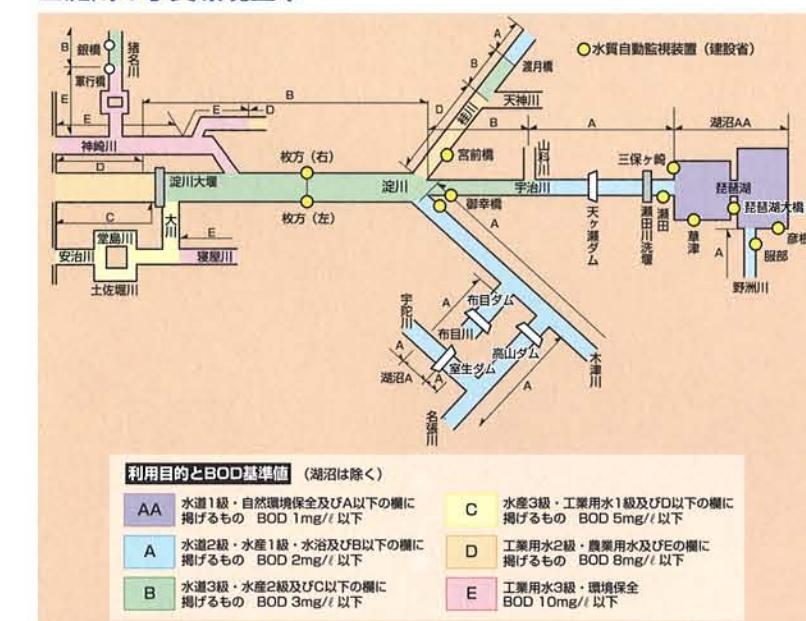
■淀川の利水状況図（水利権量）



※1992年日本河川水質年鑑を元に作成

水 環 境

■淀川の水質環境基準



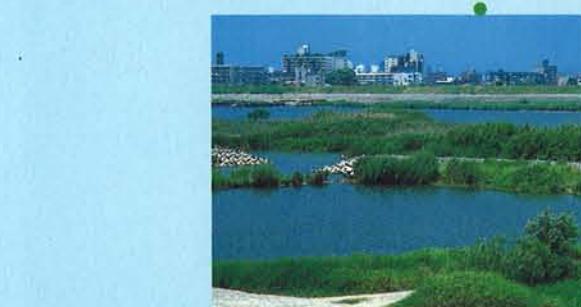
■近年の淀川水系の渇水

年	琵琶湖流域平均雨量()内は平年比(%)						取水制限期間(月日)	制限日数(日)	取水制限率	琵琶湖最低水位	淀川枚方最小日流量
	7月	8月	9月	10月	11月	12月					
1973	50 (21)	116 (75)	181 (86)	166 (127)	71 (71)	64 (54)	1次 7.31～ 2次 9. 4～	96 1	10% 20%	15% 25%	-54cm 9月 2日
1977	68 (29)	88 (57)	165 (79)	59 (45)	165 (165)	141 (119)	1次 8.25～	134	10%	15%	-58cm 11月 2日
1978	41 (18)	71 (46)	195 (93)	83 (63)	95 (95)	89 (75)	1次 9. 1～	159	10%	15%	-73cm 11月 29日
1984	183 (78)	57 (37)	98 (47)	70 (53)	45 (45)	133 (113)	1次 10. 9～ 2次 11. 6～	154 115	10% 20%	12% 22%	-95cm 1月 26日
1986	360 (154)	31 (20)	95 (45)	95 (73)	60 (60)	133 (113)	1次 10.17～11.28 翌1.27～翌2.10 2次 11.28～翌1.27	56 60	10% 20%	12% 22%	-88cm 12月 14日
1990	176 (75)	86 (55)	450 (214)	168 (128)	234 (234)	128 (108)					-69cm 9月 12日
1994	25 (11)	65 (42)	305 (145)	37 (28)	53 (53)	88 (75)	1次 8.22～9. 3 2次 9. 3～9.10 3次 9.10～9.16 9.19～9.27	12 9 14	10% 15% 20%	10% 15% 20%	-123cm 9月 15日
											52.7 m³/s 9月 14日

安らぎを与える「水」。

(淀川流域の見どころ)

淀川流域図





淀川ダム群の統合管理

淀川水系は、流域内人口1,063万人の8割が想定氾濫区域内に住み、また、京阪神地区を中心に約1,350万人が水利用しており、治水・利水上重要な位置を占めています。現在、淀川水系には下流の洪水調節や用水補給を行うため、瀬田川、宇治川を含む淀川本川に瀬田川洗堰、天ヶ瀬ダム、淀川大堰の諸施設が、

また、木津川上流に高山、青蓮寺、室生、布目、比奈知、桂川上流に日吉の各ダムの計9施設があります（猪名川を除く）。

淀川ダム統合管理事務所では、これらを有機的に連携させ、水系全体を見た適正な流水管理を行っています。このため、テレメーターやレーダー雨量計により得られる雨量、水位、

などの情報を関係事務所などに提供し、洪水時には、ダムへの流入量や各河川の基準地点の水位、流量などの予測計算を行い、各ダムの管理所などに情報提供や洪水調節の指示を行います。また、渴水時には、ダム群の長期的な流量予測などを行って、効率的な用水補給を行っています。

